

第1章 位置と自然

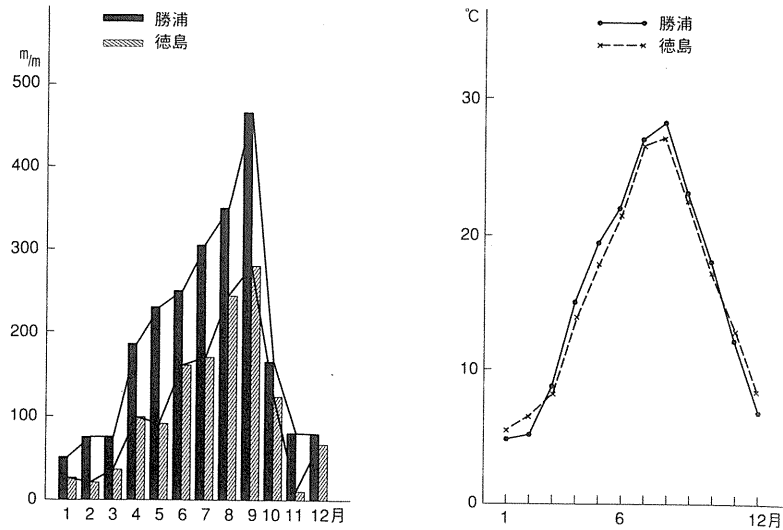


図1-3 気候図(昭和39~48年)
左 月平均降水量、右 月平均気温(『勝浦町前史』)

三 気候と気候災害

(一) 気候

四国山地の南側に位置する本町は、太平洋気候型に属し、高温多雨である。徳島市内に比べると、気温はほぼ同じであるが、降水量はかなり多い。

図1-3は、町の東端に近い県立果樹試験場(標高約一〇〇メートル)の観測値であり、観測期間も一〇年間と短いため、若干問題は残るが、一応これに従って簡単に述べてみよう。月平均気温は一月が最も低くて五度であり、最高は八月の二八・一度となっている。年平均気温は、一五・九六度であり、徳島市内の一五・八度よりわずかに高い(図1-3参照)。

年降水量は二二九七ミリであり、一月が最も少なく五〇ミリ、四月から徐々に多くなり、最大は九月の四七〇ミリとなっている。なお、徳島市内の年降水量は一三〇二ミリであるのに対し、勝浦川上流の上勝町旭では三五〇三・一ミリと極めて多い。

(二) 気候災害

『勝浦町前史』及び『勝浦町後史』に、明治二十

五年（一八九二）から昭和五十六年（一九八一）に至る約九〇年間の災害に関する記録があるため、これを簡単に要約・整理し、若干のコメントを加えてみよう。

1 旱 魃

明治二十七年。大正二年六月～八月、六〇日間の大旱天で水田に亀裂を生ずる。同十五年七～九月、五日間の旱天で華氏九〇度以上の酷暑が続き山田に亀裂を生ずる。昭和二年七・八月、三〇日間の旱天で山田に亀裂を生ずる。同七年七月、旱天による稲作被害甚大。同十四年七・八月、三五日間に及ぶ旱天で大正二年以来の大旱魃となる。同十五年六月。同十七年八月、三〇日間旱天が続き、旱魃となる。同十八年五月、旱天一か月続き、麦枯れる。同四十二年七・八月、旱天続きミカン旱害を受ける。

旱魃、そして旱害については忘れられがちだが、記録に残るものだけでも、九〇年間に一〇回に及んでいる。

2 降雪・寒波

大正十三年十二月、降雪七寸。昭和六年二月、降雪のためミカン樹の被害甚大。同七年二月、夜大雪一尺二寸積もりミカン樹被害大。同十一年一月、大雪八寸積もる。同十四年一月、雪降り続き寒気甚だしくミカン樹の被害甚大。同二十年二月、降雪一尺。同四十三年二月、大雪でミカン園九二〇ヘクタール被害。同五十年七月、降雪でミカン果実に傷害。同五十五年七・八月、晴天少なく冷夏で農作物減収。同五

十六年二・三月、寒波来襲しミカン樹大冷害を受ける。

南国の地・勝浦町では、近年雪が少なく、たとえ降ってもすぐ融けるのだが、この記録によると、昭和十一年二月には三〇～四〇センチの積雪があったことが知られる。

3 暴風雨・洪水

明治三十年、堤防と道路欠壊。同三十二年九月、堤防と道路欠壊。大正元年九月、勝浦川増水で堤上五尺超ゆ。同四年九月、暴風雨で稲白穂と化した。同七年八月、暴風雨により被害甚大。同十年七月、暴風雨により斜面崩壊。同十一年七月、暴風雨で勝浦川増水し堤上に及ぶ。昭和三年八月、暴風雨で出水、横瀬橋流失し家屋浸水生じ、死者一人。同六年九月、勝浦川増水し堰欠壊。同九年九月、暴風雨（室戸台風）により被害甚大。同十年六月、暴風雨で勝浦川増水し砂利水田に混入、新築中の生比奈小学校倒壊す。同年八月、暴風雨で生比奈天神社の大杉倒壊す。同十三年七月、暴風雨で勝浦川増水しタバコ葉の被害甚大。同十六年七月、暴風雨で勝浦川増水氾濫しタバコ葉に被害甚大。同年八月、暴風雨で勝浦川氾濫。同十八年六月、暴風雨で麦作流される。同年九月、暴風雨で勝浦川氾濫し晩稲作白穂化。同二十年六月、大雷雨・勝浦川増水で堤防欠壊し麦押し流される。同年九月、暴風雨（枕崎台風）。同二十四年八月、暴風雨（ジュディス台風）で堤防欠壊。同二十五年九月、暴風雨（ジェーン・キジャ両台風）で被害甚大。同二十六年七月、暴風雨（ケイト台風）。同年十月、暴風雨（ルース台風）。同二十八年、暴風雨（台風一三号）。同二十九年、暴

第1編 自然環境と歴史

風雨（台風一三号）。

昭和三十一年八月、台風九号来襲。同年九月、台風一五号来襲。同三十二年六月、台風一〇号来襲。同年九月、台風来襲。同三十三年八月、台風一七号来襲。同年九月、台風二三号来襲。同年十月、大暴風雨来襲。同三十四年九月、台風一四号来襲。同三十五年四月、台風来襲。同年八月、台風一一号来襲。同三十五年四月、台風来襲。同年八月、台風一一号来襲。同三十九年九月、台風二〇号来襲して被害甚大。同年九月、第二室戸台風来襲しミカン二〇〇〇トン落果。同三十九年九月、台風二〇号来襲し、横瀬中学校体育館屋根が飛び、民家三戸倒壊、ミカン多く落果。同四十年九月、台風二三号来襲し家屋全壊三戸、半壊一三戸、床上浸水三〇戸、床下浸水九三戸。同四十二年十月、台風三四号来襲。同四十三年七月、台風四号来襲し、道路七か所、河川一四か所、田畑・人家に被害あり。同年八月、台風一〇号来襲。同年九月、集中豪雨あり、平地部冠水被害大。同四十四年八月、台風九号来襲、床下浸水二一戸、田畑冠水八五ヘクタール、道路一八か所、河川八か所被害。同四十五年八月、台風一〇号来襲し道路・河川・農作物被害、床下浸水八戸。同四十六年八月、台風一九・二三号来襲、道路・河川・田畑被害、床下浸水二六戸。同四十七年九月、集中豪雨で水田・ミカン被害大。同月、台風二〇号来襲し道路・河川・がけくずれ、田畑被害、死者一人、床下浸水二五戸。同四十九年六月、局地的集中豪雨（坂本川沿い）で床上浸水七戸、床下浸水三〇戸、橋二か所流失、一か所破損、県道不通五か所、堤防・護岸決潰流失五か所、にわとり三〇〇羽流失。同年七月、台風八号来襲し日浦山が幅三〇メートル崩壊。同年九月、台風一八号来襲し、被害大。同五十年八月、集中豪雨でミカン・水田被害。同月、台風五・六号来襲しミカン落果。同五十四年九月、台風一六号来襲し田畑被害。同年十月、台風二〇号来襲し田畑被害。

『勝浦町前史』と『勝浦町後史』とで、災害の表現方法が若干異なる。また昭和二十年以後「暴風雨」に代わって「台風」という言葉が使われている。

災害の記録は、時代によって粗密があると考えられるが、要するに、剣山山地の南側に位置する本町は夏から初秋にかけて豪雨が多く、その度に洪水が発生し、民家・農地・公共施設などに被害を与え続けてきた。本町に住む人々の歴史は、すなわち洪水との闘いの歴史であったともいえるのである。